

## 基礎編・ワードの新メニュー(Office2007)

(株) 竹内ハガネ商行 情報システム室  
竹内寿一郎

はじめに

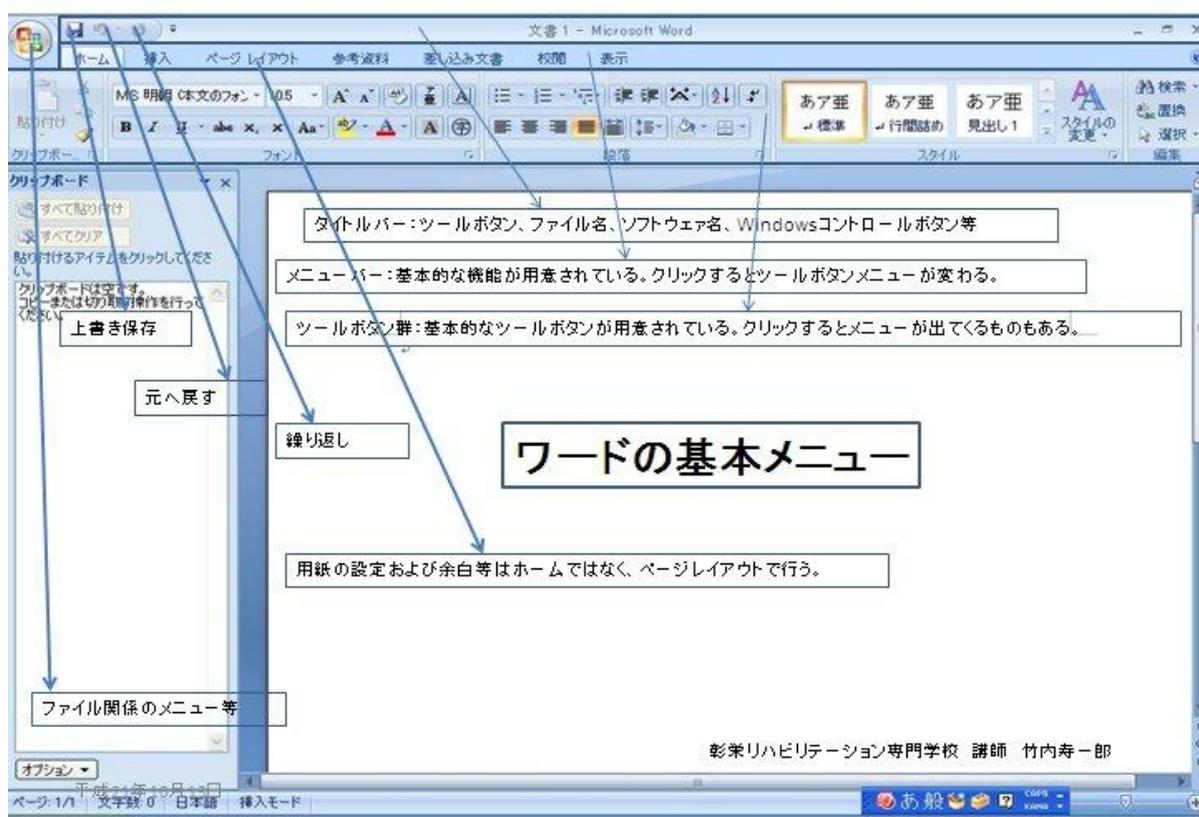
Office は 97-2003 までマイナーチェンジだったのであまり気にならなかったのですが、2007 を使ってみて、大幅に変更されたので愕然としてしまった。



左の図はこれまでの Word で、メニューバーを中心に、あとはツールボタンが標準と書式があったり、下の方には図の描画用のボタンを、ツールボタンの表示から選択配置するように設定できた。

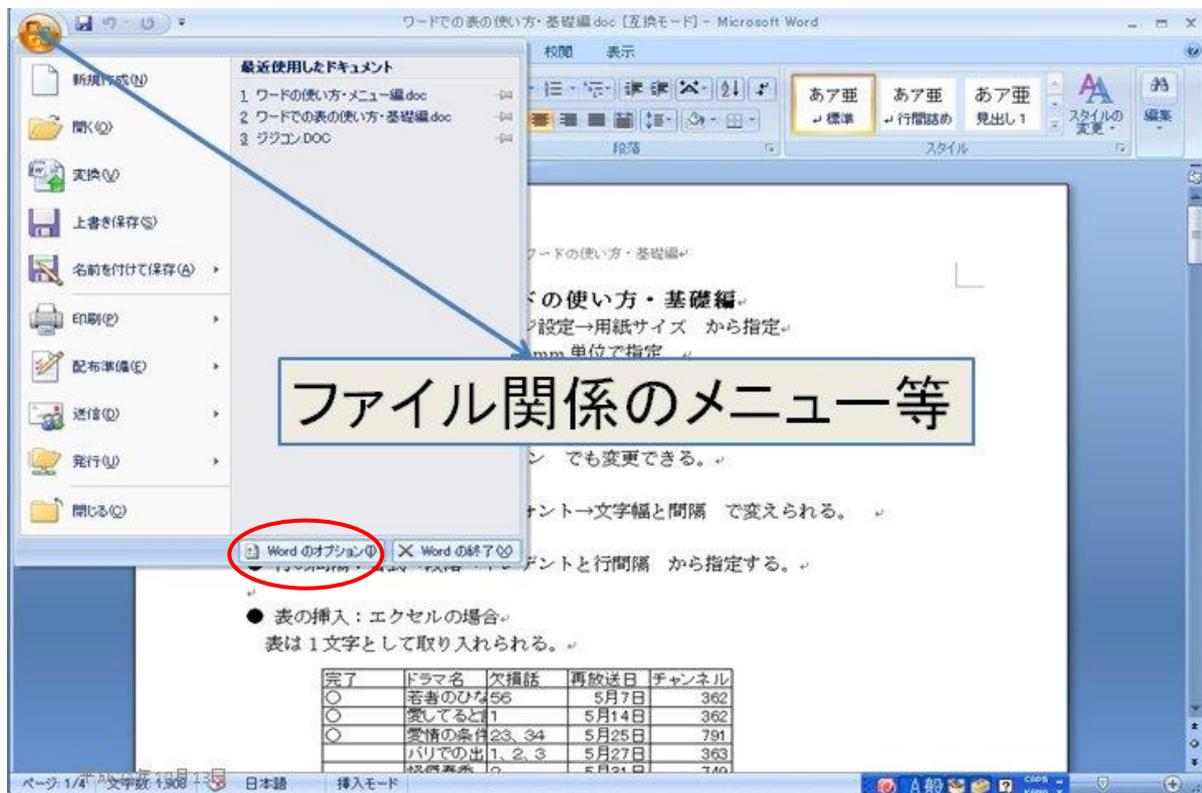
下の図を見て頂きたい。メニューバーががらりと変わり、それに対応してツールボタン群が一新されるという、これまでとは比べ物にならない位の大きな変更が為されたのである。

新メニュー紹介

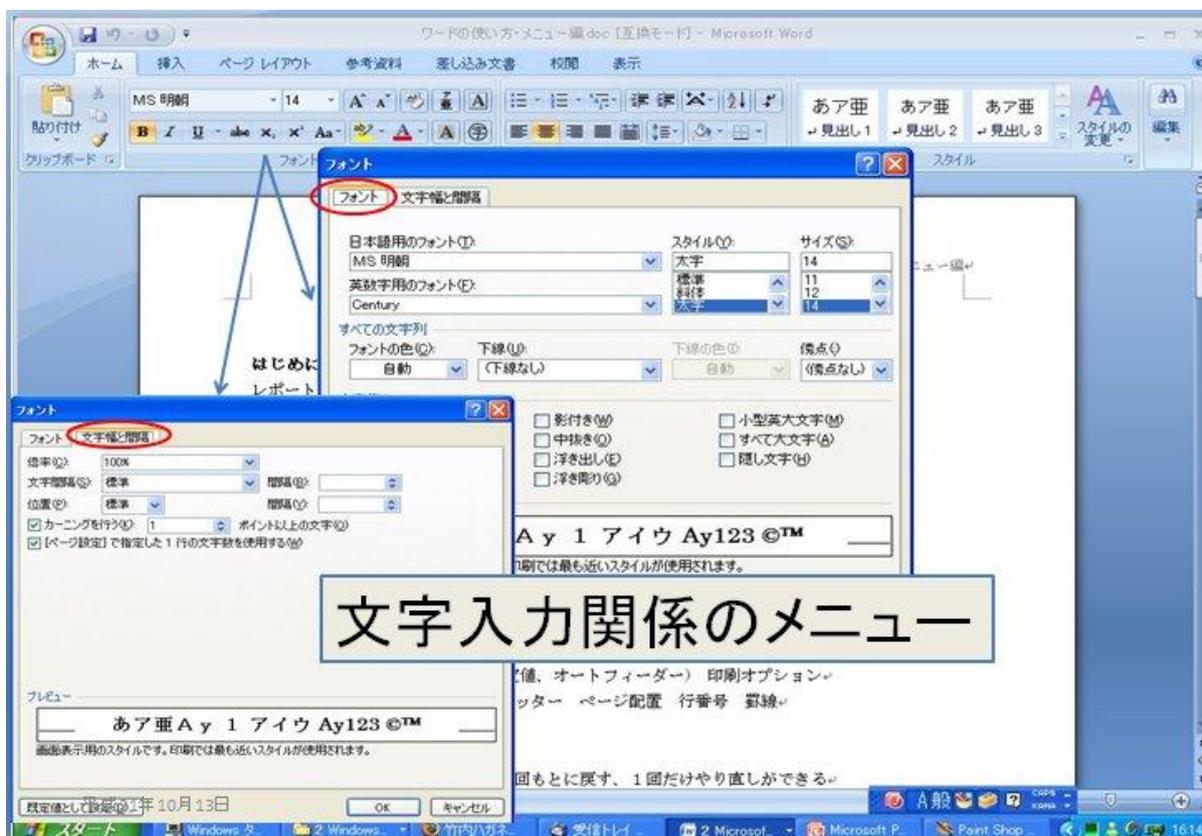


上の図が新メニューのホーム・タブとそれに対するボタン群である。

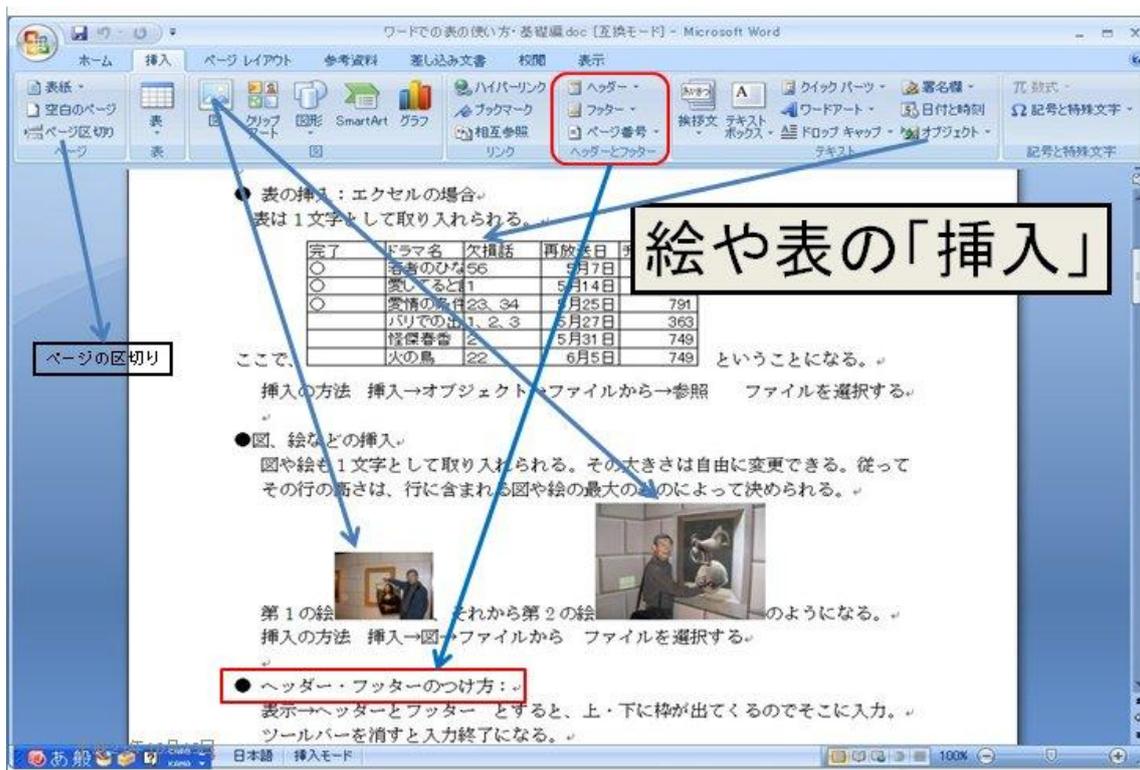
下の図は Office ボタンからのメニューで、ファイル関係だけでなく、Word のオプションメニューもここから入る。



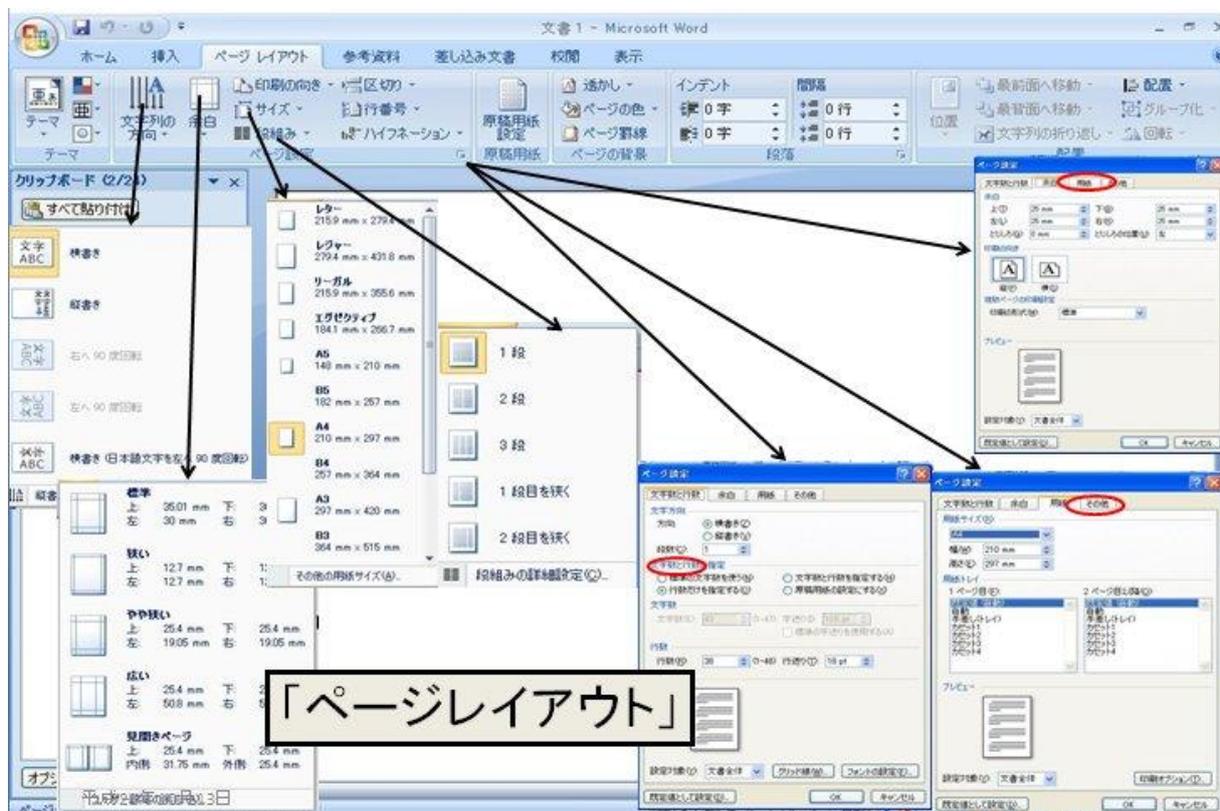
文字関係の制御はツールボタンからも出来るが、メニューバーの下にある小さな文字のラベル・フォントの右下の矢印をクリックすると、以下のようなボックスが現れる。



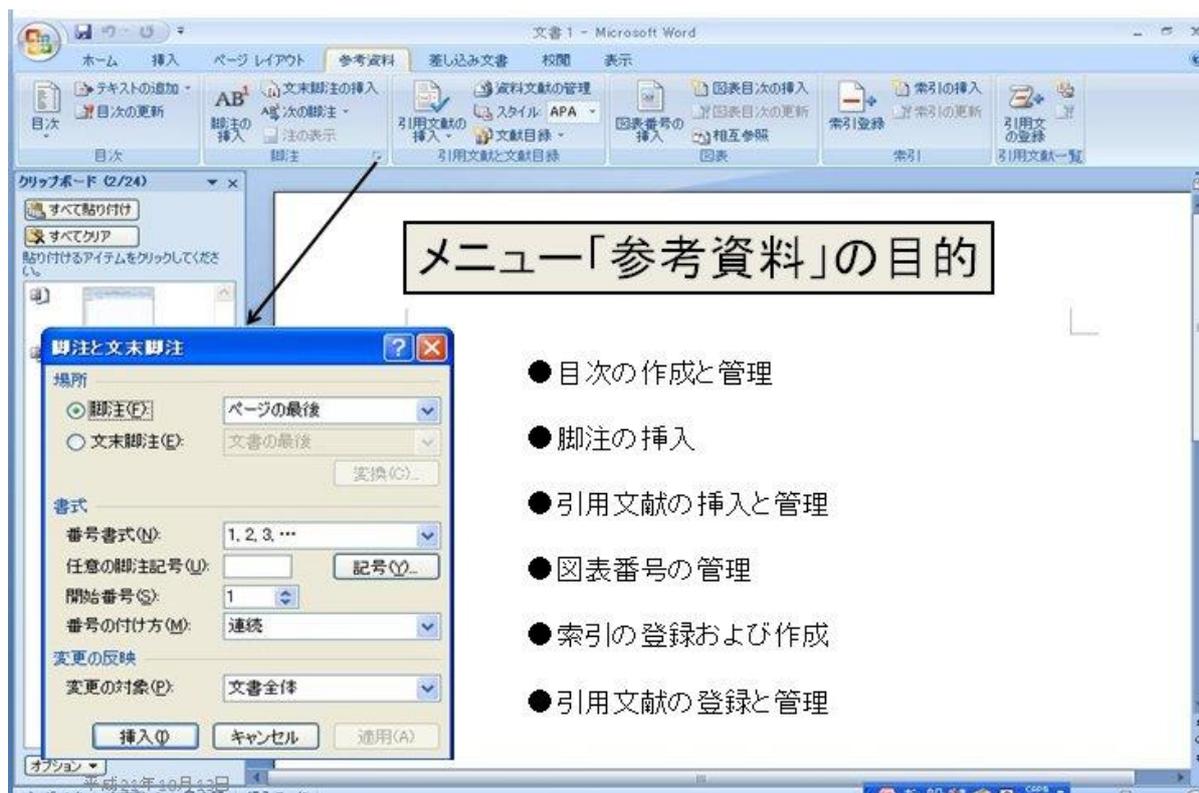
挿入タブにはいろいろなツールボタンがあり、下図は絵や表の挿入を示す。



基本的に、挿入された絵や表は 1 文字扱いで、大きさの分だけ行の高さが大きくなる。

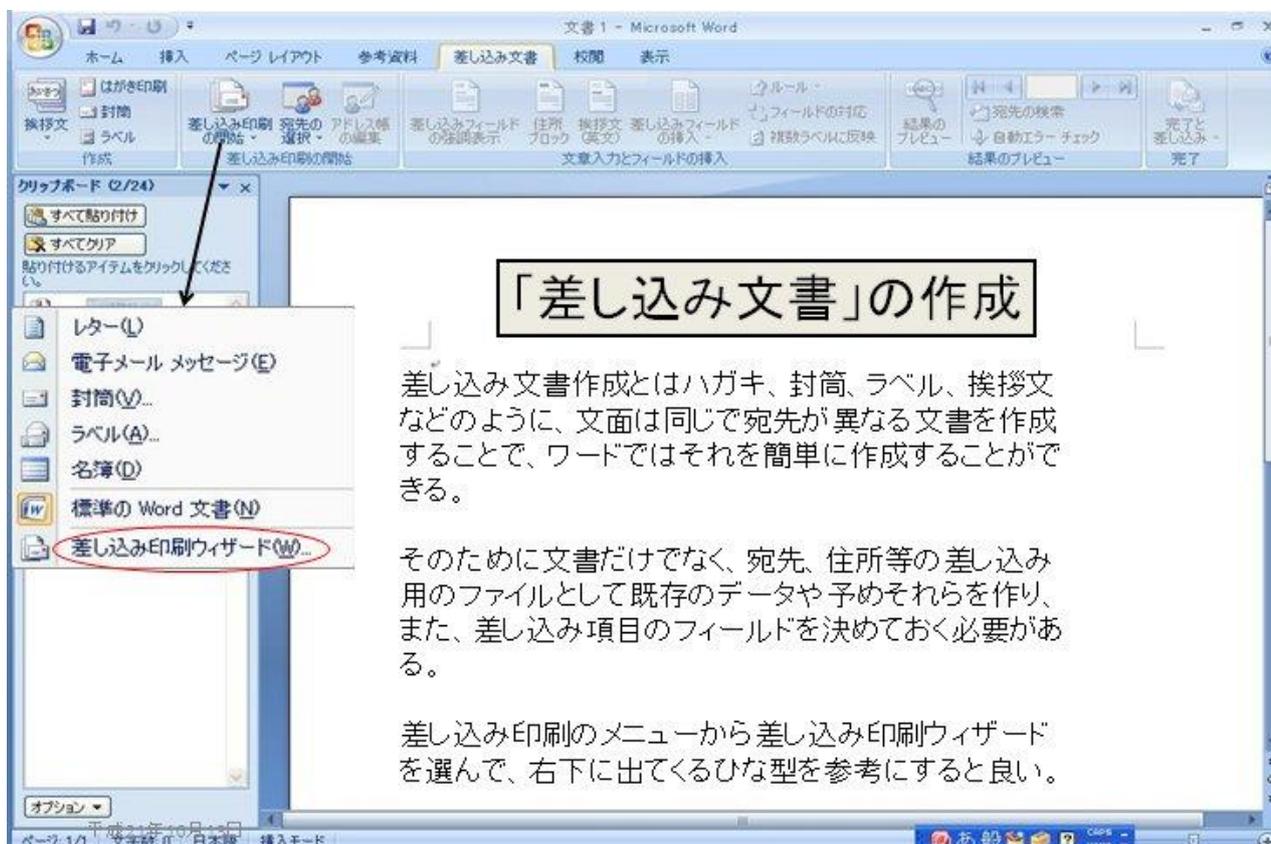


ページレイアウトは従来のページ設定に相当し、随分拡張された機能が並んでいる。

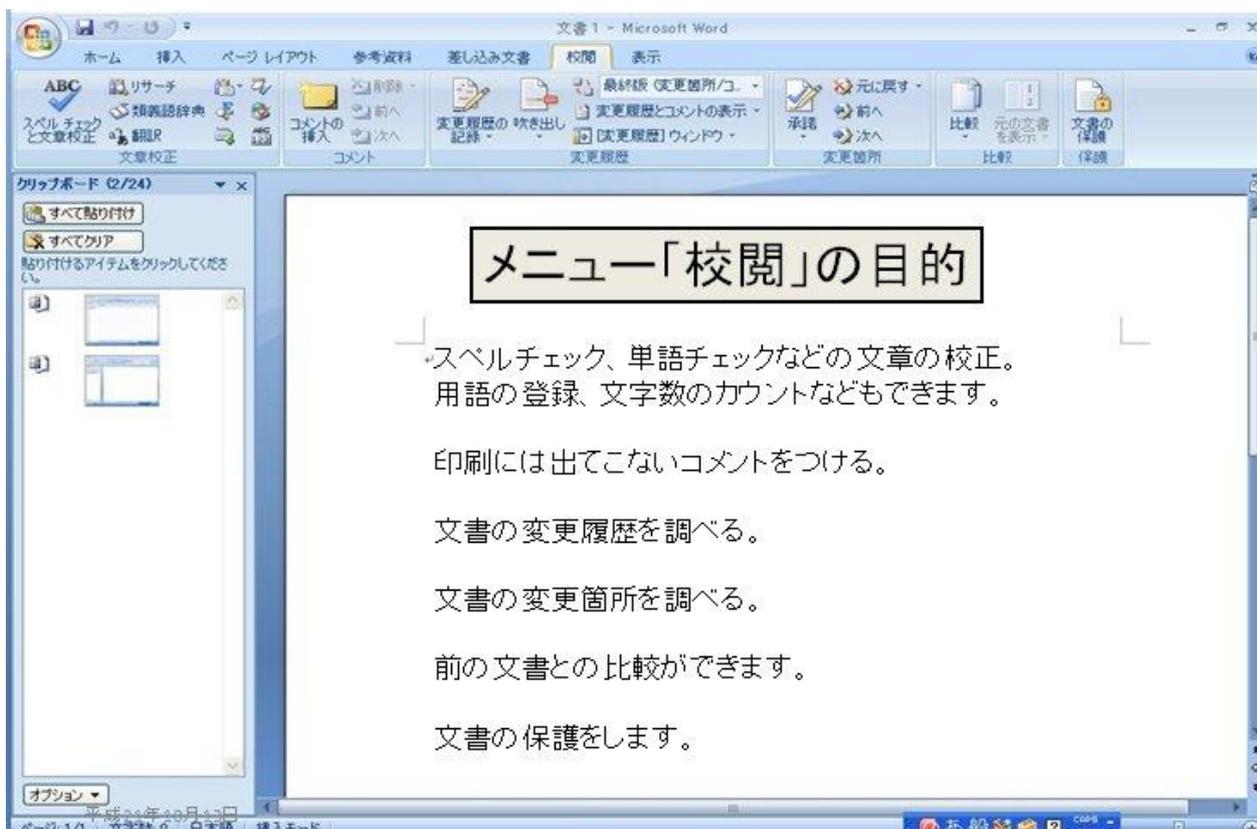


参考資料はワードがまるで出版作業の肩代わりを仰せつかったようなものである。

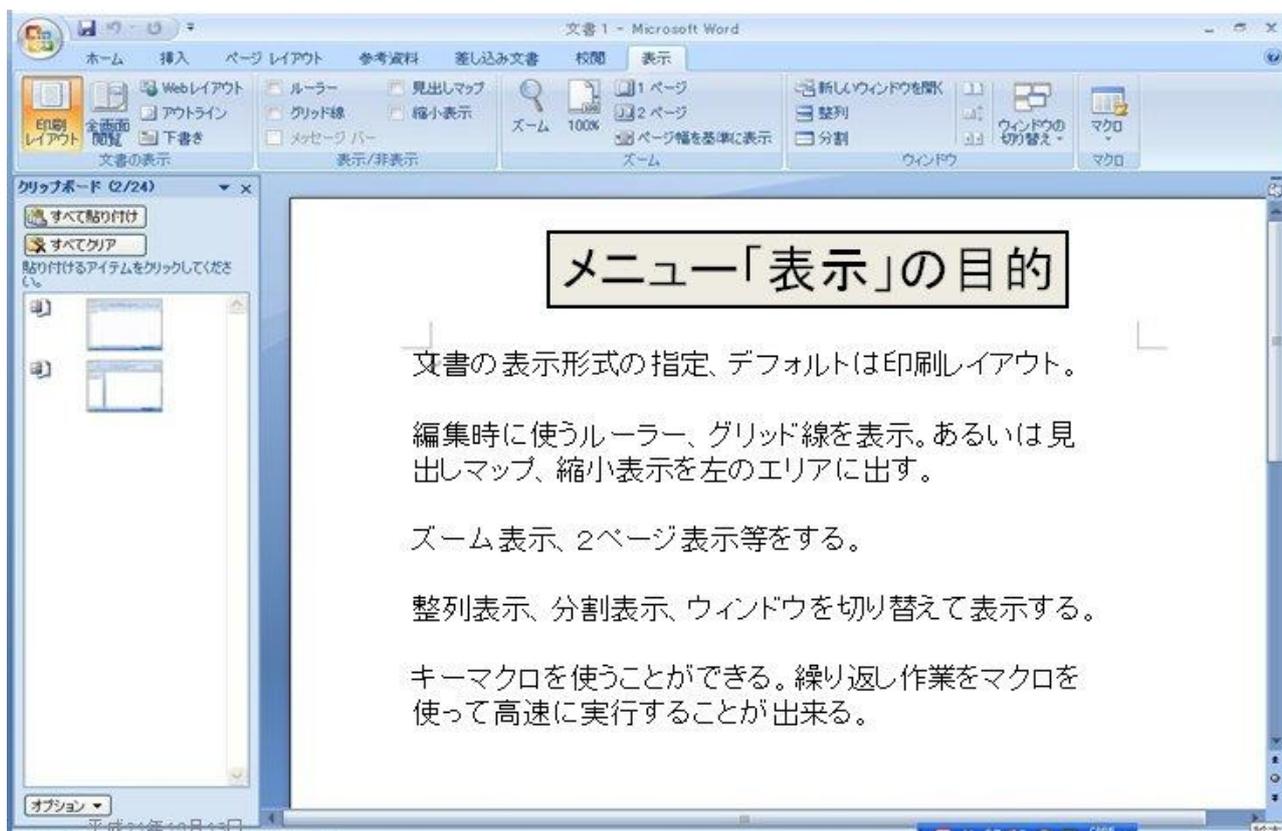
次の差し込み文書では筆王とか筆まめに負けないような機能を目指している。



校閲は校正だけではなく、従来修正したとき、何処を直したか分からないのをはっきり分かるようにさせたもので、便利な機能を加えたものである。



表示ではウィンドウでの表示方法をいろいろ工夫している。また、キーマクロも使える。



## 応用編・ワードでの表の使い方(Office2007)

絵や表の横にどうしたら文字が書けるか？この上下の図を見比べてみよう。

現象の図示		説明						
 <p>ドラマ「春の日」から</p>		<p>左の図は、今年の韓流ドラマの中で最も人気の高かったものから、抜粋した写真で、ヒロインのコ・ヒョンジョンは韓国ドラマの金字塔と言われる「砂時計」に主演し、財閥の息子に見初められ電撃結婚をしたものの離婚し、10年後に復帰して主演した作品の中から選ばれたものである。最近ではBSフジ「善徳女王」にも出演している。</p>						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>題名</th> <th>主演</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>冬のソナタ</td> <td>ペ・ヨンジュン チェ・ジウ</td> </tr> <tr> <td>秋の童話</td> <td>ソン・スンホン ソン・ヘギョ</td> </tr> </tbody> </table>		題名	主演	冬のソナタ	ペ・ヨンジュン チェ・ジウ	秋の童話	ソン・スンホン ソン・ヘギョ	<p>左の表はユン・ソクホ監督作品の中の代表作を掲げたもので、日本でも人気の高かったドラマである。</p>
題名	主演							
冬のソナタ	ペ・ヨンジュン チェ・ジウ							
秋の童話	ソン・スンホン ソン・ヘギョ							
		<p>ユン・ソクホ監督の四季のドラマは、あと何と何でしょうか</p>						

### 現象の図示



ドラマ「春の日」から

題名	主演
冬のソナタ	ペ・ヨンジュン チェ・ジウ
秋の童話	ソン・スンホン ソン・ヘギョ

### 説明

左の図は、今年の韓流ドラマの中で最も人気の高かったものから、抜粋した写真で、ヒロインのコ・ヒョンジョンは韓国ドラマの金字塔と言われる「砂時計」に主演し、財閥の息子に見初められ電撃結婚をしたものの離婚し、10年後に復帰して主演した作品の中から選ばれたものである。最近ではBSフジ「善徳女王」にも出演している。左の表はユン・ソクホ監督作品の中の代表作を掲げたもので、日本でも人気の高かったドラマである。

ユン・ソクホ監督の四季のドラマは、あと何と何でしょうか

答：夏の香り、春のワルツ

前ページのように表を利用すると、図と説明を別々に書くことが出来、しかもそれぞれの枠内で、書式を変えることも可能である。

通常、挿入する表、および図は1文字扱いである。しかし前ページの表中の表は、ツールバー「挿入」の「表」を使って挿入したもので、エクセルで表を作成してからそれを挿入したものではない。エクセルで作成した表であれば1文字扱いとなることに注意しよう。

● 表の挿入（「挿入」から「表」を選び、「表の挿入」を選ぶ）

(1) 1行×1列

--

(2) 1行×2列

--	--

(3) 2行×1列


(4) 2行×2列


このように基本の表スタイルを決めて、表内の行数は<改行>を繰り返せば広げることが出来る。挿入した表や図の大きさをドラッグして決めることによっても枠内を大きくすることが出来る。

枠内での書式はその枠の中だけに通じる書式をそれぞれ別々に設定してもよい。

(5) 表中の表の挿入、2行×2列の中の2行×3列

<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							

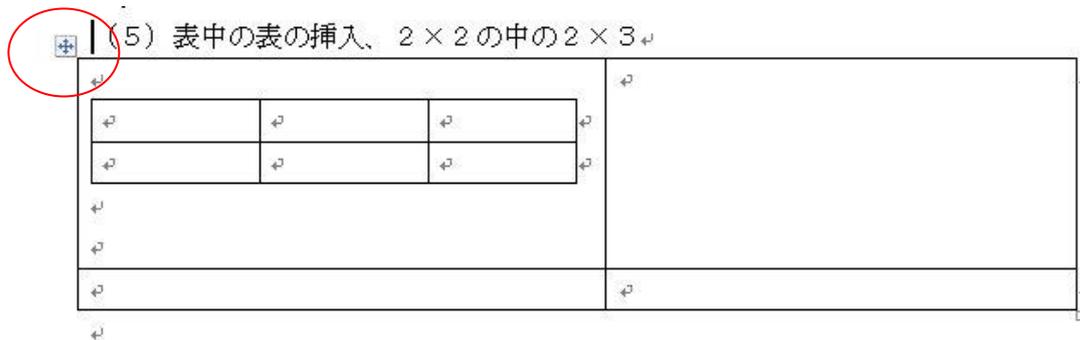
● 表の大きさの微調整(掴んだ表であればレイアウトから選べる)

上下・左右の枠線上にそっとカーソルをもってゆくと、カーソルが「2重線に矢印」記号に変わるので、それをドラッグすることにより枠線の位置を変えることが出来る。ただし、この表は文字単位ではないことに注意すること。

● 罫線の修正

罫線に関するツールボタンは書式設定のところにも何所にも無い。Office2007からは「挿入」→「表」→「罫線を引く」は、あった所に罫線を引くことは出来るが、罫線を描くだけで罫線を描かない(消す)の変更等はできない。変更するためには罫線用のツールボ

タンを表示させる為、罫線を使ったオブジェクトを掴まなければならない。たとえば下図のように、



表を掴んだ状態とはカーソルを表の左上部へもってゆくと上の丸印で示すような四角で囲んだ十字のマークが出てきたらそこをクリックすると表が掴まれ(編集可能な状態になる)、メニューバーを見ると表が掴まれた状態のときメニューバーに表ツール(デザインとレイアウト)が追加される(下図)。

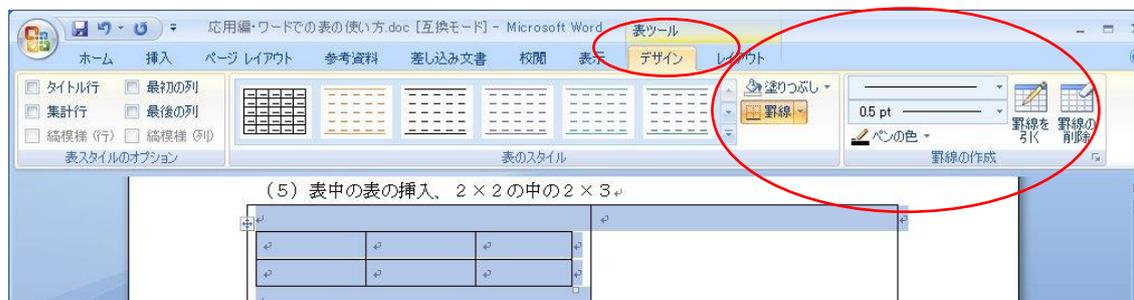


図1. 「デザイン」のツールボタン表示

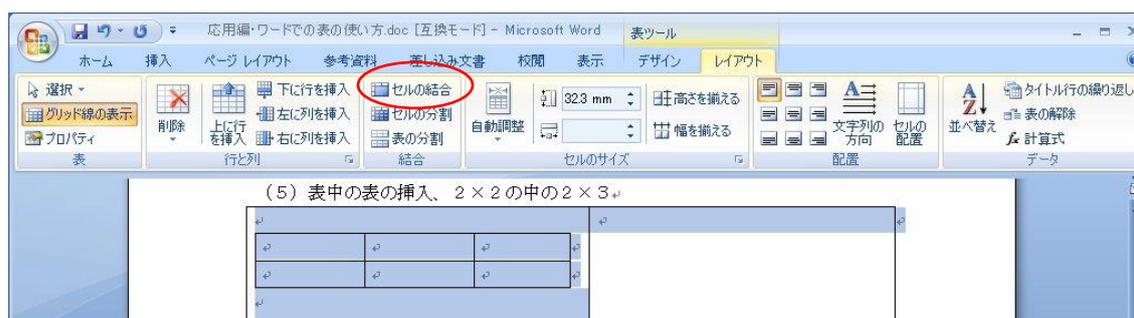


図2. 「レイアウト」のツールボタン表示

● 罫線を消す

表を掴んで表ツールを出し、「デザイン」から右上にある罫線を編集するボタン(図1. 丸印で囲った「デザイン」のツールボタン)を使う。「挿入」タブ→「表」→「罫線を引く」、または「デザイン」から「罫線を引く」を選ぶと、小さなペンが出て、表の罫線の消えた部分をペンのポインタでクリックすることにより罫線が復活する。消しゴムのポ

インタ(罫線の削除)で消したい線を横切るようにドラッグして(運よく)罫線を消すことも出来るが、基本的にこれは罫線を無くす操作で、消しゴムは使わない方がよい。「罫線」→「枠線なし」を選んで全ての罫線を消し、ペンで必要な部分を復活させる。または、「デザイン」タブの「罫線の作成」ラベルの右下の矢印から罫線のダイアログボックスで、「罫線なし」を選択してから各罫線部分を実質的に消していてもよい。

このとき罫線以外のところをクリックするとポイントが元に戻ってしまうだけではなく、表を掴むことが解消されて、せっかく出ていた表ツールメニューが消えてしまうことに注意しよう。この罫線を消す作業は印刷するとき罫線が印刷されないようにするだけで、罫線がなくなってしまう訳ではない。

罫線を無くすには、次項「セルの結合」の項目で述べる。表ツールの「レイアウト」のメニューからセルの結合を選べば確実である(図2の上部の丸印)。

●セルの結合(罫線を無くす。罫線を単に消すだけではないことに注意)

表を掴んでから、結合したいセルの部分をドラッグする。表を掴んだ状態は全エリアなので、ここで「セルの結合」を行うと全てが結合されて1×1の表ができてしまう。このとき改めて結合したいセルの部分をドラッグし直した後、表ツールの「レイアウト」で「セルの結合」(図2. 上部参照のこと)をクリックすると、罫線が消えるとともにセルが結合される。

2つのセルが結合されると、書式等が違うこともあり、とんでもない結果になることが多い。従ってこの作業をするときには常に「元に戻す」ことを考慮して行わねばならない。

以上、という訳で7ページ以降のような手順で6ページの上部的ような複雑な罫線枠が入った文面を作成し、8ページ以降のような手順で罫線を消したり、セルを結合したりして、6ページの下部的ようなページを作成することが出来る。

罫線を消すことによって印刷して出来上がった文面だけを見ると、図や表の横に文字が入っているのも、まるで図や表が文中に思い通りに配置できるものと錯覚させられる。

以上

(株)竹内ハガネ商行 情報システム室長  
慶應義塾大学理工学部 講師  
彰栄リハビリテーション専門学校 講師  
東邦大学医学部佐倉病院 耳鼻咽喉科学教室 講師

竹内寿一郎